

グループワークの概要

【コーディネーター】 自治医科大学 看護学部 学部長 春山早苗 先生

グループワークの方法

○出席者が27グループに分かれてディスカッションを行った。

テーマ:統括的な役割を發揮するための現状と課題について

内容:(1)あなたが統括保健師として組織横断的に取り組んだ取組名と概要を健康づくりのテーマを含めてグループ内で発表してください。

(2)(1)のうち、健康づくりに関する取組から、議論を深めたい組織横断的な取組を一つ選択ください。また、その実施に当たっての要因を①情報の収集②情報の整理③情報を共有④連携の実際の視点から仕組みづくりの観点も含めて記載ください。

(3)(2)の要因を受けて、統括保健師として組織横断的な取組を実行するために、会議後自治体に戻ってからすぐに取組みたいことを記載ください。

(4)本日のグループワークをとおして、統括保健師として役割を果たすために必要なことを記載ください。

発表

3グループが発表を行った。

【1グループ】
統括保健師として役割を果たすために必要なこと

○いかなる場面においても統括保健師同士(各保健所や都道府県庁)の連携が必要。
○マンパワー不足については、地域の健康課題を把握・整理し、人員要求へ繋げていく。
○次期統括保健師を計画的に育成するためにはジョブローテーションが必要。
○都道府県の統括保健師は市町村の統括保健師育成も重要である。

【2グループ】
統括保健師として役割を果たすために必要なこと

○施策の方針・目標設定を明確にする。
○地域特性に応じた住民主体の健康づくりをPDCAサイクルを推進する、保健師活動の本質をしっかりと形にして、推進することを明確にする。
○市の総合計画や重点施策に保健活動を位置付けることが重要。これによって保健師の活動が市の中で重要なものと認識され、他課との連携のきっかけとなる。
○積極的な可視化により保健師の有用性をアピールし、その必要性が理解されることは保健師の増員にもつながる。

【3グループ】
統括保健師として役割を果たすために必要なこと

○多部門で保健師が活動しているが、業務内容が不透明なところがある。そこへ統括保健師が出向き情報をとり、現状を把握したり課題を一緒に検討する必要がある。
○統括保健師の組織における位置付けを改めて見直す。
○情報収集力、得た情報の調整力、判断力が大切。
○他部門へ情報を上げるためには見える化が重要。統括の立ち位置、統括の存在を知らせるためには広報力も必要。

講評

- ・統括保健師の役割として、今後の保健活動の方向性を示し、保健師間にその方向性が浸透するように働きかけをし、各保健師の保健活動が方向性から逸れないようにマネジメントする必要がある。また、組織内にも保健活動の方向性を示し、保健師が何をしているかを他部署に理解してもらうことが重要。
- ・保健師の活動を推進するための環境整備(予算の確保等)を行うことも統括保健師の役割である。
- ・統括保健師は部署横断的な会議に出席することが多くある。その機会を活かして、施策や事業の推進において、誰に何を伝える必要があるのか、それは統括保健師でないとできないことか、他のスタッフでも可能かを判断する必要がある。統括保健師だからこそ伝えられること、伝えやすいことを判断して部署横断的な取組を推進していく必要がある。
- ・部署横断的な会議に参加して収集した情報は、どこで誰と共有するのかを検討し、統括保健師だからこそ働きかけられる情報を使って保健活動を可視化し、地域の課題を示し、何のために保健師が必要であることを明確に伝えていくことが重要。このように、他部署へ保健活動を見せることで、保健師の有用性が伝わり、保健活動のサポートを得られたり、保健師の確保へ繋がっていく。
- ・都道府県は管轄する市区町村の、市区町村は地域の、健康課題を情報収集し資料化することで、施策の推進や組織横断的な調整に活用していく。
- ・地域の健康課題の明確化や保健活動の評価のための情報(データ)の分析等においては地域の大学を活用することも必要である。